

市民の声を聞きました

知ってる人が載っていると、ついつい読み進めてしまう。

(30代・男性)

最終ページの赤ちゃんの写真に癒やされる。赤ちゃんに限らず、子どもたちがたくさん載れば、見る人も増えると思う。(30代・女性)

赤ちゃんのページは、いつも気になる。特集ページは興味を引く内容のときは読んでいる。

(40代・男性)

途中から紙面のレイアウトや写真がとてもきれいになって読みやすくなった。(40代・女性)

写真をたくさん使えば、見る人がもっと増えると思う。

(20代・男性)

今月は何が書いてあるかと気になって必ず見ている。料理のページが楽しみで、よく作っている。

(70代・女性)

市役所からのお知らせが多くて、見る気がしない。(50代・女性)

若者が興味を持つテーマをピックアップしてほしい。

(20代・男性)

頑張っている市民をもっと取り上げて、紹介すべきだ。

(50代・男性)



▲祖父の恒治さんと子どもたちに囲まれ広報紙を読む長島安弓さん(門屋)

広報のあるべき姿

行政として市政情報をお知らせすることは大切なことで

トのある写真は、それ1枚で多くを語ることが出来ます。どの写真を使ったら良いのか、少しでも多くの市民の皆さんに「広報おまえぎぎ」を手にとって見てもらうため、広報担当者は日々試行錯誤を繰り返しています。

全国どここの市町でも発行されている広報紙。100人の広報担当がいれば100通りの広報紙が出来上がり、その背景には、それと同じ数だけ担当者の苦悩があります。

すが、お知らせの羅列では行政目線の自己満足で終わってしまいます。

自分たちの住むまちのことを考えるきっかけとなるような広報紙。市民の皆さんが少しでもまちのために行動を起こそう、そんな行動喚起のできる広報紙。そして「広報おまえぎぎ」を読んだ市民が御前崎市のことをもっと好きになるような、そんな広報紙を作るのが広報担当者の永遠のテーマであり、究極の目標でもあります。愛される広報紙を目指し、担当者が変わることはあっても、その気持ちは受け継がれていきます。これからも、「広報おまえぎぎ」をよろしく願っています。

⑤印刷

印刷業者で、毎月1万部が印刷・製本されます。

⑥納品

毎月第2金曜日に市役所に納品されます。

⑦配布

市職員が、町内会長のお宅へ届け、各家庭への配布をお願いしています。また、市内のスーパーや金融機関などのご協力を得て店内に置かせていただいています。

